

1 . 序 言

本年度から山手地区に統合バイオサイエンスセンター研究棟が完成し、岡崎の3研究所の新しい連携が実施されることになる。加えて、平成14年度から設置が認められた分子スケールナノサイエンスセンターの研究施設の建設が同地区に1 - 2年内完成することが認められた。分子スケールナノサイエンスセンターは、分子を基底とした新しい物質科学を、ナノサイエンスという立場から推進するものであり、「広義の物質科学研究」を行う分子科学研究所が、単に物質創製という立場のみから立ち向かうのではなく、光分子科学および化学反応ダイナミクスの立場からの関与を含めた多岐に渉る、共同研究の場である。また、設立以来17年以上を経過した極端紫外光実験施設の高度化が認められ、この1年で、新しい施設としてますますの活発な共同利用がなされるものと確信している。

昨年末に、井口洋夫名誉教授が分子エレクトロニクス部門として文化勲章受章の荣誉に輝かれた。井口先生の分子科学に対する多大な貢献への感謝が本レポートに組み込まれている。

本レポートの編集の指揮を取られた薬師久彌教授、広報担当の佐藤敦子、中村理枝両氏および管理局の方々に篤く御礼申し上げる。

平成14年3月
分子科学研究所長 茅 幸二